

## 厚生労働科学研究費補助金

障害者対策総合研究事業（障害者政策総合研究事業（精神障害分野））

### 分担研究報告書

# 身体疾患を合併する精神疾患に対するアクセプタンス&コミットメント・セラピー（ACT）の適用に関する研究

研究分担者 熊野宏昭

早稲田大学人間科学学術院 教授

#### 研究要旨

**研究目的:** 様々な精神症状を伴うことの多い慢性身体疾患に、新たな認知行動療法であるアクセプタンス&コミットメント・セラピー（ACT）の適用可能性を探る。本年度は、「ACTが外来2型糖尿病患者のセルフケアおよび血糖コントロールの改善に及ぼす影響を検討する無作為試験」を開始した。

**研究方法:** 日本人外来2型糖尿病患者140名を、ACT群と教育群に、性別、ベースライン測定時のHbA1c値およびBMIの3要因で平準化するように層別無作為化した上で70名ずつ割り付ける。ACT群には1時間の糖尿病教育と3時間のACT、教育群には4時間の糖尿病教育を実施する。血糖コントロールをHbA1c値で、セルフケア行動を質問紙のJ-SDSCAで、関連する要因をAADQ、PAID、注意機能尺度、および神経心理課題（WCST、GoNogo課題）でそれぞれ介入前と3か月後に比較し評価する。HbA1c値は6ヶ月後も測定する。

**結果:** ACT群、教育群とも2日間に分けて実施したが、それぞれ30名、23名の参加が得られた。今後3か月後のデータを収集し、介入効果を検討する。

**まとめ:** 外来2型糖尿病患者を対象にしたACTのランダム化比較試験を開始した。ACTをグループ療法で糖尿病患者に適用するフィージビリティが示された。

#### 研究協力者氏名・所属施設名及び職名

大内佑子	早稲田大学人間科学学術院	助手
野田光彦	独立行政法人国立国際医療研究センター糖尿病研究部	部長
峯山智佳	独立行政法人国立国際医療研究センター糖尿病研究部	客員研究員

血糖コントロールの改善に及ぼす影響を検討

#### A. 研究目的

様々な精神症状を伴うことの多い慢性身体疾患に対して、認知行動療法的アプローチの1つである「アクセプタンス&コミットメント・セラピー（ACT）」の適用可能性を探ることを目的とする。本年度は、糖尿病への適用可能性を示すために、「ACTが外来2型糖尿病患者のセルフケアおよびする無作為試験」を開始する。

## B. 研究方法

日本人外来2型糖尿病患者140名を、ACT群と教育群に、性別、ベースライン測定時のHbA1c値およびBMIの3要因で平準化するように層別無作為化した上で70名ずつ割り付ける。ACT群には1時間の糖尿病教育と3時間のACT、教育群には4時間の糖尿病教育を実施する(図1)。血糖コントロールをHbA1c値で、セルフケア行動をThe Summary of Diabetes Self-Care Activities Measure(日本語版セルフケア行動評価尺度;J-SDSCA)(大徳ら、2006)で、関連する要因を、Problem Areas In Diabetes Survey(糖尿病問題領域質問票;PAID)(石井、2001)、Acceptance and Action Diabetes Questionnaire(AADQ)(Gregg, 2004)、注意機能尺度(鈴木、2005)およびWisconsin card sorting test(ウイソシンカードソーティングテスト;WCST)、衝動性抑制課題(Go/NoGo課題)でそれぞれ介入前と3か月後に比較し評価する。HbA1c値は6ヶ月後も測定する。

得られたデータは横断的にも解析し、多母集団同時分析を用いた因果モデルを作成して日本人を対象としたACTの介入効果の詳細を予測するための検討を行う。

### (倫理面への配慮)

本研究は、独立行政法人国立国際医療研究センター倫理委員会、早稲田大学人を対象とする研究に関する倫理委員会による承認を受け、研究実施に当たっては、参加者からの文書による同意を得る。

## C. 研究結果

ACT群は、糖尿病専門医1名と臨床心理士2名が担当し、教育群は、糖尿病専門医2名、理学療法士1名、管理栄養士1名が担当した(図

2)。そしてACT群、教育群とも、独立行政法人国立国際医療研究センター国府台病院において、2日間に分けて実施され、それぞれ30(14+16)名、23(15+8)名の熱心な参加が得られた。今後3か月後のデータを収集し、介入効果を検討する。

横断的解析では、研究協力者112名のうち、回答に不備のない102名を解析対象とした。平均年齢は $61.3 \pm 7.71$ 歳、男性48名・女性54名で、HbA1c値は $7.67 \pm 5.73$ であった。HbA1c値を従属変数とした重回帰分析を行った結果、注意機能尺度の「注意の分割」、BMI、総コレステロール値で標準偏回帰係数が有意であった( $R^2 = 0.26$ )。

## D. 考察

本年度は、「ACTが外来2型糖尿病患者のセルフケアおよび血糖コントロールの改善に及ぼす影響を検討する無作為試験」を開始したが、当初の目標参加数140名に対して53名の参加にとどまった。参加者の熱心な様子からは、ACTをグループ療法で糖尿病患者に適用するフィジビリティが示された。一旦、介入効果の検討を行った後、別の医療施設にもフィールドを広げるかどうかを検討する必要がある。

横断調査においては、ACTによる介入において重要視される「気づき」の側面には注意制御機能が重要となることが示されている(Theasdale et al., 2002)が、この「気づき」に関連する「注意の分割」の低さが、高いHbA1c値を予測する可能性示唆された。

## E. 結論

外来2型糖尿病患者を対象にしたACTのランダム化比較試験を開始した結果、ACTをグループ療法で糖尿病患者に適用するフィジビリティ

ィが示された。今後、介入効果を明らかにすることで、実際の適用可能性についてさらに検討を深めたい。

## **F. 健康危険情報**

特記すべきものなし。

## **G. 研究発表**

### **1. 論文発表**

なし。

### **2. 学会発表**

大内佑子，峯山智佳，野田光彦，熊野宏昭：  
アクセプタンス&コミットメント・セラピーが  
外来2型糖尿病患者のセルフケアおよび血糖コ  
ントロールの改善に及ぼす影響を検討する無作  
為試験 - 研究プロトコルの報告．第8回生活習  
慣病認知行動療法研究会，2014

## **H. 知的財産権の出願・登録状況**

### **1. 特許取得**

なし。

### **2. 実用新案登録**

なし。

### **3. その他**

なし。

図1 プログラム概要

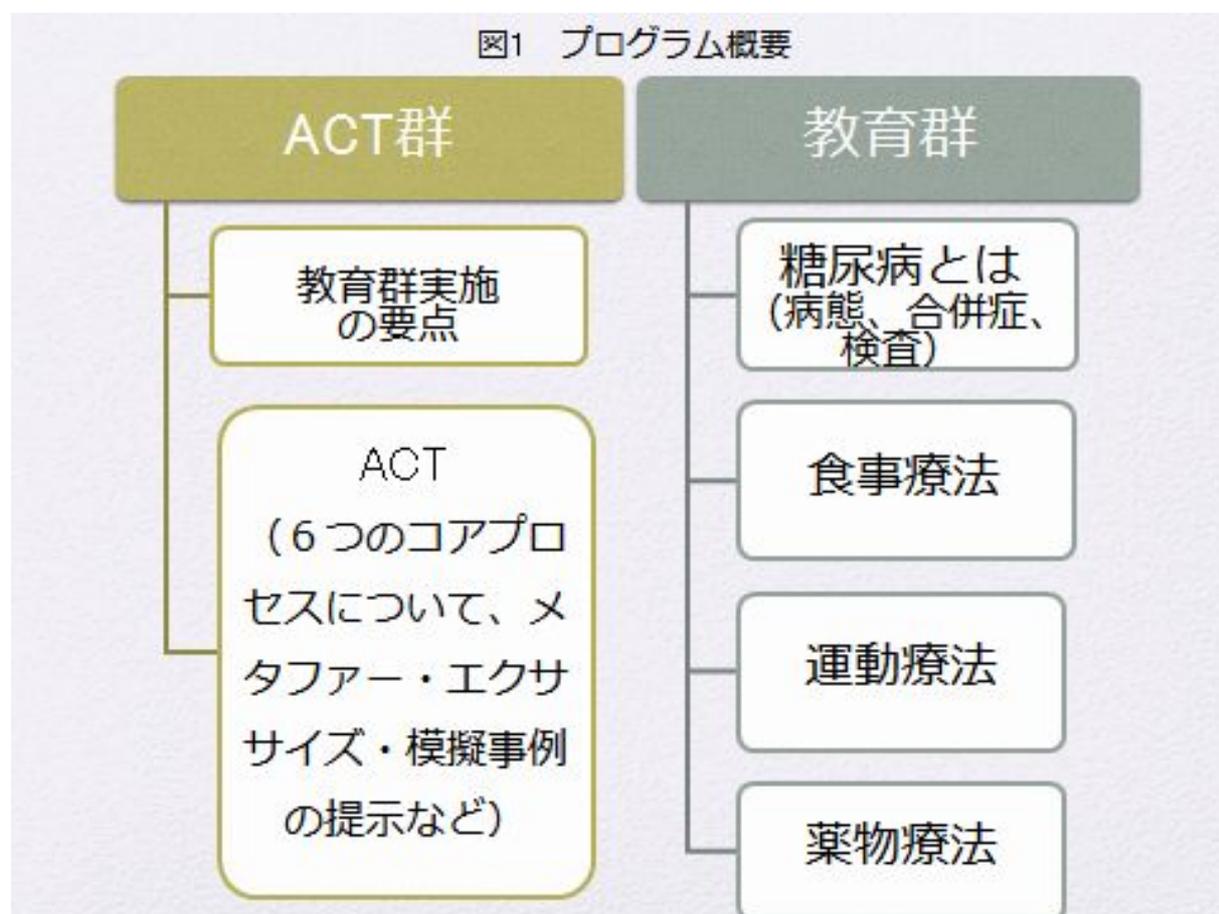


図2 プログラム実施者

